

多次元科学からみたヒトの構成と 精神・死後世界

満塩大洗* · 安保雄次**

*高知大学理学部地学教室 · **人間・環境変動研究会/株式会社アーボン

THE COMPONENTS OF HUMAN BEING AND THE WORLDS OF MENTAL AND
THOSE AFTER DEATH, FROM VIEW POINTS OF MULTI-DIMENSIONAL SCIENCES

Taikou H. MITUSIO* and Yuji ABO**

*Department of Geology, Faculty of Science, Kochi University

**Research Society for Human and Environmental Changes, and Ahbon CO. LTD.

Abstract

From the view points of Multi-Dimensional Science, the components of human being were studied as well as the mental world and that after death. The human body is composed by the visible and invisible components, and the former is the 3rd-dimensional physical body, and the latter is usually called spirit and soul, those are more precisely 3.5- to 9th-dimensional body that are called Ether, Astral, Mental, Causal, Buddy, Atoman and Monad by Theosophy. And each comparison on the worlds after death is correlated with many literatures.

1. はじめに

20世紀も終わりに近づき、我々の周辺では俗に言う世紀末現象が見られる。これらの現象は「天の払い」・加えて、「地の払い」に「人の払い」、或は、これらの複合した「天地人の払い」と言うべきであろう。これらの「払い」とは、これらに対して如何ように取るかは各自の判断によるが、悪い方に解釈して、災害/災難や事故と取った場合、通常の3次元科学である。自然科学・社会科学・人文科学の観点からみれば、我々の専門である地球科学からみれば、地球は上層から気圏・水圏・岩石圏、及び、これらにまたがる生物圏の4圏があるが、「天の払い」とは宇宙及び気圏からの災害で、台風や小惑星・巨大隕石などの衝突などである。また、筆者らの地球科学上のテーマで、長年研究してきた水圏・岩石圏の相互作用の環境変動は、「地の払い」に関連した自然災害で、地震や津波、更に地滑り/山地崩壊や土石流などである。また、火山活動による火砕流・溶岩流や噴煙

表 1 . ヒトの感覚器官の分類 (6 感 + 1 感)

<p>⑦ 超感覚器官</p>	<p>① 眼—視覚 ② 耳—聴覚 ③ 鼻—臭覚 ④ 舌—味覚 ⑤ 身—触覚 ⑥ 意—心</p>
<p>超心理学 Parapsychology 超科学 Parascience 多次元科学 Multi Dimensional Sciences</p>	<p>光学 Optics 音響学 Acoustics 臭い学 Osmetics 味学 Groumetology 触学・測温学 心理学 Psychology</p>
<p>第七感</p>	<p>色・光 音 臭い 味 手触り・温度 第六感</p>
<p>Extra Sensory Perception, ESP</p>	<p>虫眼鏡→ルーペ→顕微鏡 ↓電子顕微鏡 電話・放送 ソナー 魚探→PDR (音響測深機) 箸→マニピュレーター 思う・想う・考える</p>

表 2 . 次元と座標軸とその任意の位置

次元	軸	位置
0	なし	0
1	X	Xi
2	X,Y	Xi, Yi
3	X,Y,Z	Xi, Yi, Zi
4	X,Y,Z,A	Xi, Yi, Zi, Ai
5	X,Y,Z,A,B	Xi, Yi, Zi, Ai, Bi
6	X,Y,Z,A,B,C	Xi, Yi, Zi, Ai, Bi, Ci
7	X,Y,Z,A,B,C,D	Xi, Yi, Zi, Ai, Bi, Ci, Di
8	X,Y,Z,A,B,C,D,E	Xi, Yi, Zi, Ai, Bi, Ci, Di, Ei
9	X,Y,Z,A,B,C,D,E,F	Xi, Yi, Zi, Ai, Bi, Ci, Di, Ei, Fi
10	X,Y,Z,A,B,C,D,E,F,G	Xi, Yi, Zi, Ai, Bi, Ci, Di, Ei, Fi, Gi
--	-----	-----
n	X,Y,----,E,F,G----	Xi, Yi, ----Ei, Fi, Gi-----

-- 任意の次元

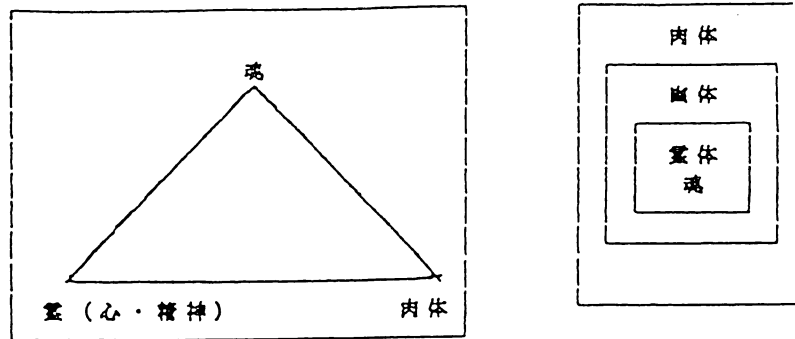
表 3 . 各次元と事物・事象との関係

次元	自由度	現象	説明	
0	0	点	物質 始まり=終わり/全て	
1	1	直線 (棒)	針/糸	
2	2	平面	紙/板	
3	3	立体	サイコロ/マッチ箱	
3.5	3.5	立体/超立体 との中間	精神 幽界/エーテル界 中有界/バルド界	
4	4	超立体	夢 ・ 霊 死 後 の界 世 界	
5	5	超立体 ²		感情/欲望界/アストラル界
6	6	超立体 ³		精神/思考の世界/メンタル界 原因の世界/コーザル界
7	7	超立体 ⁴	サトリの世界/ブッティ界 アートマの世界 神我界=真我界/モナド界	
8	8	超立体 ⁵		
9	9	超立体 ⁶		
10	10	他の進化した惑星		
無限	無限			

表 4 . ヒトの構成説の一覧

1) 瀧坂大光 (1989)

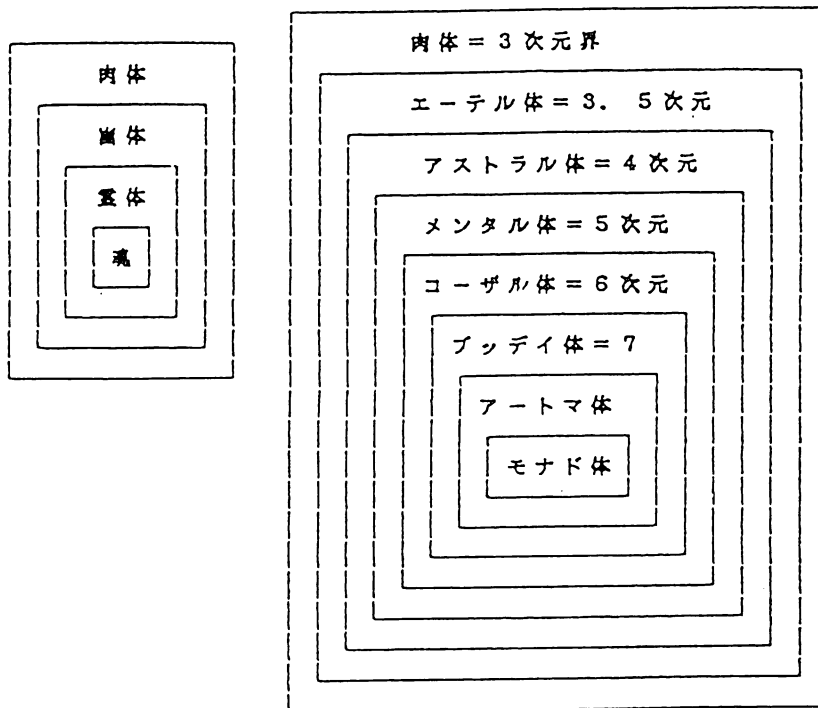
2) 岡本 雅 (1982-)



第1図 人間の構成 (トリアッド)

3) 小野塚 啓 (1989)

4) 神智学 (3世紀以前)



5) スウェーデンボルグ (1668-1772)

人間の7つの度 —— これらの「度」が、各人の支配権を握る。

1. 感性的なもの (the sensual)
2. 自然的なもの (the natural)
3. 霊的-自然的なもの (the spiritual - natural)
4. 天的なものの、霊的なもの (the spiritual of the celestial)
5. 霊的なものの、天的なもの (the celestial of the spiritual)
6. 天的なもの (the celestial)
7. 最内奥のもの (an inmost)

• 1-3, 人間の外的なもの。4 = 外と内との間の媒体。5-7, 内なる人間

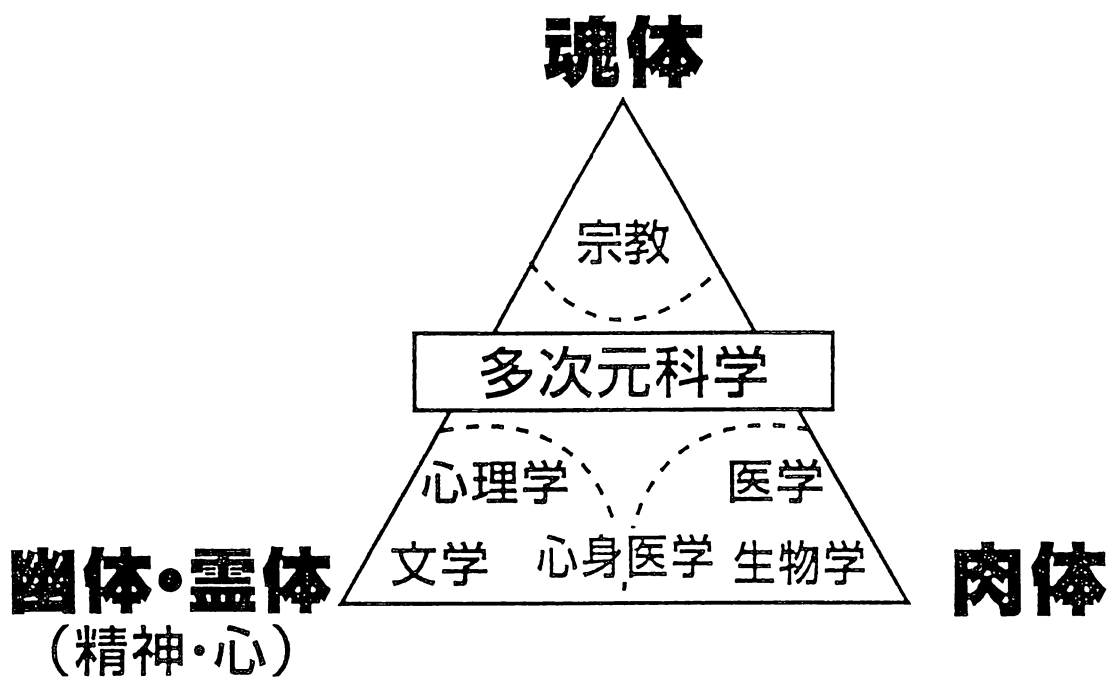


図 1 . ヒトの構成の3成分系とそれらを解明する科学分野

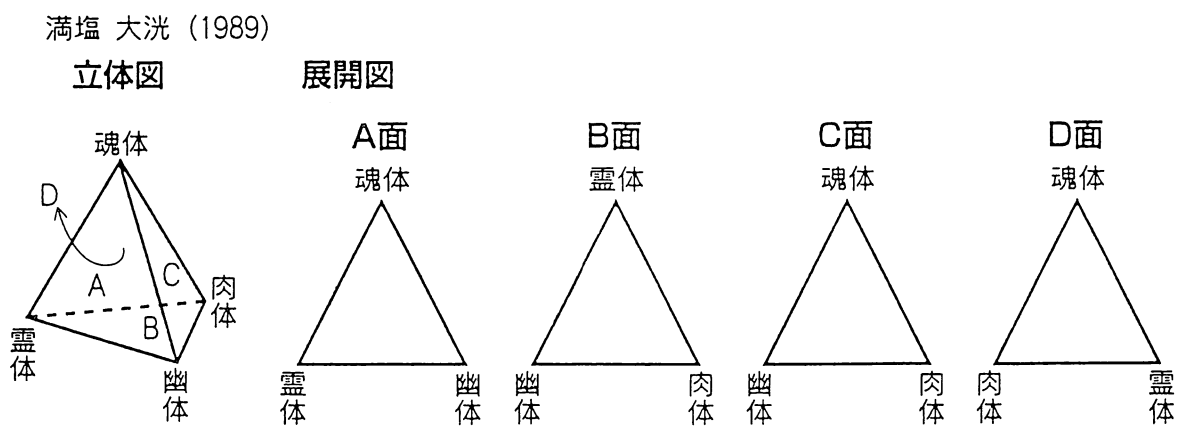


図 2 . ヒトの構成の4成分系

災害などである。最後の「人の払い」とは、社会科学・人文科学的な事件で、戦争や難病／エイズや陰湿なイジメや自殺などである。

これらの事象は人類にとってはいわゆる四苦八苦であるが、これらの中で四苦と言われる生老病死は最も人々が恐れているものであろう。この内、死を人々は最も恐れている。しかし、死と言うものが解明されて、たとえば、死後の世界が厳然としてあり、いわゆる転生輪廻が証明されたならば、人々はもっと安心できるのではないだろうか。

そこで我々はまず、回りの環境を認識するのはヒトであるから、ヒトが何から構成されているかを解明し、ついで、死後世界の存在を解明し、更に、これらの世界がどのようなになっているかについて文献により対比を行った。

2. 方法

シュタイナーが指摘する「超感覚器官」とは表1に示す¹⁾²⁾。これはいわば第7感とも言えるものである。これによって不可視の世界の機構を明らかにするものである。更に、文献による対比も行った。

3. 結果及び考察

3-1. 多次元の世界

まず、多次元世界を知るには、通常理解できる事から始めるべきであろう。表2に各次元の軸数と任意の位置を示す。次に、我々の回りの事物や事象がどの次元と関係しているかを表3に示す。

3-2. 人間の構成

これについての諸説を表3に示す。一般に肉体・幽体・霊体・魂体の4体からできるとされるが、神智学では最も複雑で、8つの体に細分している。

図1に、地質学でよく使う三角ダイアグラムで3成分を表し、それらを解明している諸科学の分野を示す。多次元科学とは全てを取り扱う総合科学である。また、図2には満塩説の4成分系で説明する³⁾。

3-3. 死後世界の12項目の証明

死後世界の存在は、我々は次の12項目から証明されると考えている。ページの都合でここでは、各項目を挙げるにとどめておく⁴⁾。1) 論理的論拠、2) 道徳的論拠、3) 神／仏的論拠、4) 逆行催眠、5) 過去生の記憶、6) 生まれ変わり、7) 近死／臨死体験、8) 幽体分離(OOBE)、9) 透視／霊視、10) 幽／霊の存在、11) 奇病／難病の存在、12) 超感覚器官による認識／識別。

3-4. 文献による死後世界の対比

この対比に次いで、表5に示す。各説は概ね9段階に分けていて、天国と地獄を区分している(満塩、1989)。

表5. 死後世界の分類の総括

光色	岡本権 A (1982)	盛土道	宮地水位 B (1948)	小野塚 啓 C (1989)	五位島久 (1953)	仏教 九品九生		
↑	天命界	日の古	神	白光界	神界	如来道		
↑	聖天界	日の小古	万霊神台	第7界層 (神界)				
↑	神界	姫姫の古	仙	第6界層 (神界)		靈界	菩薩道	
↑	仏界	高祖の古	神楽岳	第5界層 (靈界)			靈界	羅漢道
↑	靈界	中祖の古	紫雲宮	第4界層 (靈界)				靈界
↑	魔界	夏祖の古	日月界	中神現			肉体系	
↑	物質界	現界	一西伝仙界	有靈衆		肉体系		修羅道
↑	夜叉界	妖の国	仏仙界	界界界			肉体系	畜生道
↑	阿修羅界		山天 上界	上界		第3界層 (魔界)		地獄道
↑	地獄界	夜叉界	人狗拘翼界	第2界層 (魔界)		地獄道	地獄道	
↑	阿鼻界	夜叉界	一 震勢界	第1界層 (魔界)	地獄道		地獄道	
↑	大地王界	大地王界	魔上等界	晴風界		地獄道	地獄道	

神智学 (3世紀以前)	ワード (1953)	ヨガナンダ 3 (1983)	ヨガナンダ 2 (1983)	カミンス 秘蔵神太郎 (1688-1772)	スウェーデンボルグ (1688-1772)
モナド界	第1界	観念界 (後靈界)	第7界 彼岸 (地獄)	第3天国	第3天国
アトマ界	第2界	ヒラニヤロー	第6界 (白光界)	第2天国	第2天国
ブッティ界	第3界	カ (上層魔界 = 魔界天国)	第5界 大受界 恒照界	第1天国	第1天国
コーザル界 (原因界)	第4界	普通魔界	第4界 色影界 (形相界)	第3靈田	第3靈田
メンタル界 (精神界)	第5界	下層魔界 (地獄)	第3界 幻相界	第2靈田	第2靈田
アストラル界 (後靈界)	第6界	第7界 冥明界	第2界 冥好	第1靈田	第1靈田
エーテル界	第7界	晴風球	第1界 物質界	晴靈界	晴靈界
物質界	物質界	物質界	物質界	物質界	物質界

- 1) 五位島久 (1953) 神と人、白光真実会。
- 2) ヨガナンダ (1983) あるヨギの自叙伝、泰光出版。
- 3) ワード (透野和三郎訳、1924、1955) 死後の世界、上・下、神霊科学研究会。
- A) 岡本権 (1982、1989) 大靈界、1巻、10巻
- B) 宮地水位 (清水成雄編、1948、1985) 冥冥篇亡版、神道本館、山荘社、169P。
- C) 小野塚啓 (1988) 私は霊界を見つけた。
- D) スウェーデンボルグ (今村光一抄訳、1985、1986) 又は霊界レポート

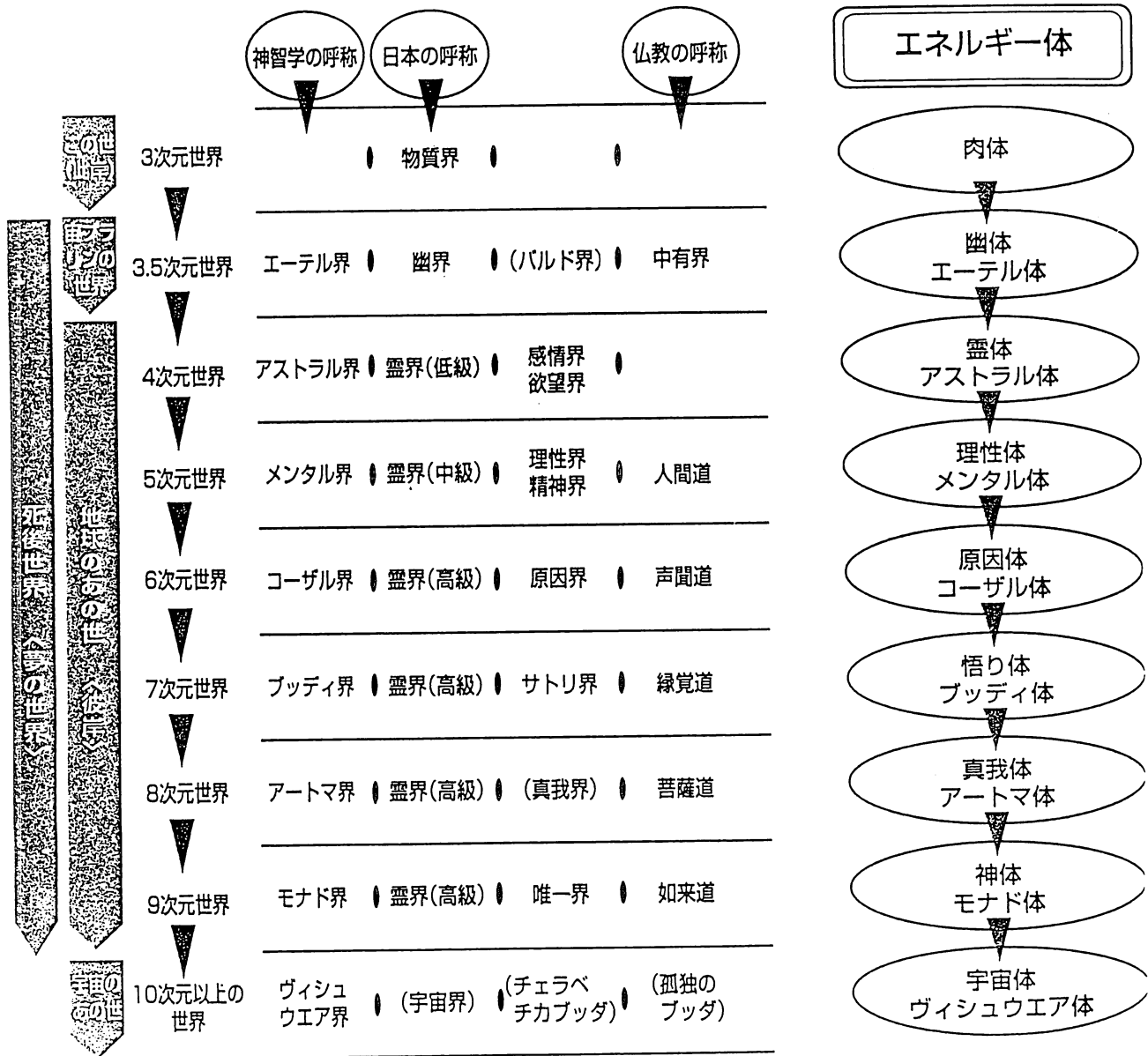


図 3 . 多次元多重層世界の総括

表 6 . 身の回りにみられるモノから
ヒトへの進化の系列

鉱物	3次元体		原始（胚芽）的感情を持つ
植物	4次元体	感情 (アストラル)	感情体+原始（胚芽）的理性体
動物	5次元体		理性体+原始（胚芽）的原因体
ペット			
原始人	6次元体	理性 (メンタル)	
普通人		原因 (コーザル)	理性体+原始（胚芽）的原因体
進化人	7次元体	サトリ (ブッディ)	原因体+原始（胚芽）的サトリ体
熱望家			
弟子	8次元体	アートマ (真我)	サトリ体+原始的アートマ体 サトリ体+原始的アートマ体が発達し、始める
大師	9次元体	唯一（神） (モナド)	モナド（唯一＝神）体を有する
宇宙人	10次元体	宇宙	10次元以上

3-5. 多次元多重層の世界の総括

我々の回りの可視及び不可視の世界が、いわゆるマンダラをなし、多次元多重層になっている事を図3に示す。

3-6. 我々は何故生まれ変わらねばならないか？

では最後に、我々は何故生まれ変わらねばならないか？これは生まれ変わりによって学習し／経験して、進化するためである。そこで、我々の回りのいろいろな事物を、物質から植物→動物に進化してきた。また、動物は更に原始的な無脊椎動物から脊椎動物へと長い地質時代を経てきた。更に、脊椎動物は魚類→両性類→爬虫類→鳥類→哺乳類へと進化した。また、哺乳類では、第四紀の更新世から人類が出現し、猿人→原人→旧人→新人へと約170万年かけて現代人にまで進化してきた。更に、これからは高級な超新人類(宇宙人)に進化するとされている。

この進化の要因は外因と内因があり、前者は自然環境であり、後者は生物体自身の内なる原因であり、これらが複雑にからんで変化が起こるのである。なお、人間自身の進化の要因には主として3つあり、1) 理性、2) 愛、3) 恐怖とされている。

4. おわりに

以上によって、死後世界は存在し、それは我々が睡眠中に行っている世界でもあり、また、想念や精神の世界でもある事が理解できよう。従って、生まれ変わり(転生輪廻)も当然有る事になる。

なお、文献は表5に挙げているが、その他の主要なものは引用文献を参照されたい。

謝 辞

人間・環境変動研究会や各地の多次元会の会員諸氏には、いつも討論／議論いただきありがとうございます。厚く感謝する。

主要引用文献

- 1) 満塩大洗. 1994. 多次元科学への招待, 物事の本質へ, その1. 叡知, (1):20-22.
- 2) 満塩大洗. 1995. 多次元科学への招待, I. 1-38.
- 3) 満塩大洗. 1994. 多次元科学への招待, 物事の本質へ, その4. 叡知, (4):2-6.
- 4) 満塩大洗. 1994. 死後世界の総括. やすらぎ, (4):2-4.